

## 第 1 学年総合カリキュラム 総合学習「世界の人々」の実践

### 1. 総合学習のねらいと課題の決定

#### (1) 総合学習のねらい

中学校で初めて取り組む総合学習ということで、生徒たちへのガイダンスでは、まず「総合学習とはどのような学習か」を説明した。総合学習では、「いろいろな教科を総合させた学習ができる」、「いろいろな教科の枠組みにこだわらない学習ができる」、そして何よりも特徴的なこととして、「自分たち（生徒）自身が決めたテーマ（課題）で学習ができる」。

この三点を生徒たちに説明するにあたり、私たち担任団が総合学習のねらいとして意識していたことは、次のようなことである。

- 自分たちが生きている社会や世界に関心を持ち、自分たち自身で課題を見つけ、それを調べたり話し合ったりして、さらに社会に対して自分たちができることを考える。
- 学年全体で共通の課題に取り組むことで、学年としてのまとまりや学年内での交流を深めるとともに、仲間と協同して学習することの楽しさや大切さを知る。

#### (2) 課題の決定までの過程

上述したようなねらいを実現していく上で重要になるのは、やはり「課題」をどうするかである。生徒自身が課題を見つけて決めるということは、総合学習での生徒たち自身の活動のモチベーションを高めるという意味でも大切にしたいことである。

そこで、今年度は一年生（初めて取り組む）ということも考慮して、「紺野美沙子さんの講演<sup>#1)</sup>を聞いて、そこから自分たちが総合学習で取り組んでいける課題を考えよう」と生徒たちに投げかけた。

注 1) 昨秋、附属四校園 PTA 主催の講演会に一年生全員が聴衆として参加するという機会を得た。女優としてだけでなく UNDP（国連開発計画）の親善大使としても活躍していらっしゃる紺野美沙子さんが「自分を見つめて世界を見つめる」という演題で講演した。

そして、講演を聞いた後で個々の生徒が書いた感想も参考にして、まず評議員たちがいくつかの課題を考え、次にそれらをクラスにもちかえてクラス内で話し合い、さらに評議員たちが各クラスの意見を持ちよって再度検討した。その結果決定したのが、「世界の人々」という大テーマと「戦争（テロ）」「世界の伝統文化、言語、宗教、流行など」「世界の国々の良いところ」「世界から見た日本」という四つの小テーマである。

次に掲げるのは、これらのテーマを学年集会で承認してもらうにあたって、評議員の代表者が読み上げた文章である。

私たちの総合学習のテーマは「世界の人々」についてです。評議員は、皆さんの意見を取り入れたり、先生の助言を得ながら、このテーマに決定しました。

まず、小テーマも含め、今回は、国際的な面で調べていくことになりました。これは今、世界ではいろいろなことが起きているから、それについて知っておく必要がある、日本だけではなく世界の国々についても知りたい、という意見を取り入れました。

次に、テーマの「世界の人々」についてです。世界には、楽しくくらししている人もたくさんいます。その国の良さやおもしろさを知っている人もたくさんいます。でも、その反面、戦争や病気で苦しみながら生きている人もいます。私たちは、世界の国々の日本という国の中の中学生の中の一人という、世界から見れば、とてもとても小さな立場です。でも、私たちにもできることはきっとあるはずです。国の良いところを調べて他の国に紹介するとか、戦争について調べて二度と同じあやまちをくりかえさないようにするなど、たくさんあるでしょう。

それを、今回のこの総合学習で学ぶことができたらいと思って、「世界の人々」というテーマにしました。

この後、各グループごとに話し合っ自分たちのグループのテーマを決めた（その決め方については、資料1を参照）。テーマが重なったグループについては、評議員たちが間に入ってさらに話し合い、最終的に決まったグループごとのテーマは、表1の通りである。

# 〈資料1〉 グループでのテーマ決め用紙

1 年 総合学習

〈小テーマ〉

- ・戦争(テロ関係も含む)
- ・世界の伝統文化、言語、宗教、流行など...
- ・世界の国々の良いところ
- ・世界から見た日本

☆このテーマを参考に、くはるプリントに詳しく文でまとめて下さい

☆テーマの決め方

例) 戦争-○○の戦争について

- ・小テーマ4つから、1つを選び、それをもう少し詳しくする。
- ・大テーマに関するテーマを自分達で新しく決めても良い。

☆総合学習の流れ

- ・小テーマを決めたら、調べた事から、(例)この△△、今、こういう状態、(した)から、この△△の為に私達が出来る事は○○です
- 最終的に「私達に出来る事は何か」をまとめられるようにして下さい。

大きいテーマ 世界の人々

★班名: THE☆BUMP OF WORLD

★メンバー

班長:

★班のテーマ (できるだけ詳しく)

- ・戦争について
- ・テロで傷ついた国々 (アフガニスタン)

1. なぜ「テロが」おきいたか?  
↓ (いつ、どこで、何をした?) 考え  
2. 戦争で困っている人々は? (アフガン)  
↓ (何の、何という人々がなぜ、何という形で?) 考え  
3. 私達に出来ることは?

★テーマ決定の理由

- ・たまたま「単に可哀相な」だけで終わらせてはいけな...と思ったから。
- ・しばらくなくないと思われていた戦争が起...こって...その理由も知りたかったから。

★調べ方

- ・新聞、ニュース、本、インターネット (インタビュー、アンケートで「私達と違う年代」の人にきいてみる)
- ・上の1、2、3ごとに、資料をまとめて、自分達の考えを付け足していく。

〈表 1〉 各グループごとのテーマ一覧

	グループ名	テーマ
1	ゆかいな仲間達（言語班）	世界の言語
2	難民助けターイズ☆	難民について（特にユニセフについて）
3	冷静と十夢のあいだ	世界の伝統文化（特に占いについて）
4	世界の佐藤家	世界の生活（特に食べ物について）
5	Happy of the world	今年あったテロについて
6	Little Rainbow	キリスト教・仏教・イスラム教の生活習慣
7	T-REX	アフガニスタンの人々
8	T. T. K	テロについて
9	Mr. S のレインボー	世界の食事
10	星々★ すたーず	世界から見た日本
11	World ☆ Peace	戦争～今問題になっているテロ関係の戦争～
12	Donasion's	難民について（特にユニセフ募金について）
13	ゲラコロ星人	世界の国々の行事
14	プラトニウム	核戦争について
15	サンライズ東京	世界の流行（特にテレビゲームについて）
16	WORLD	ユダヤ人虐殺
17	真・ムツゴロウ王国改	戦争（兵器とその被害）
18	THE ☆ BUMP OF WORLD	戦争について（テロで傷ついた国々）
19	プロジェクト 6 ～Six	世界の国土と民族衣装
20	トリプル A 『A. A. A』	オサマ・ビンラディンはなぜ疑われたか？
21	G <sup>3</sup>	世界から見た日本人の性格

## 2. 学習指導計画

10月中旬～3月にかけて、総合カリキュラムの時間を中心に指導計画を考え、次のように実施した(表 2 参照)。なお、時間のかかるグループ作りや評議員での事前の話し合いなどは放課後を使ったり、簡単な報告等は朝のミニ総カリ（15分）なども随時活用した。

表2 〈指導計画(実施記録)〉

10月12日	ガイダンス①	この日の午後、紺野美沙子さんの講演を聞く
11月6日	課題(テーマ)についてのクラスでの話し合い②	
12月4日	学年集会での大テーマと小テーマの承認③, グループごとのテーマ決め④	
11日	今後の総合学習の進め方の確認と, グループごとによる資料や訪問先のリストアップ作業⑤⑥	
1月15日	グループごとの調べ学習と訪問先との交渉⑦⑧	
18日	同上⑨⑩	
25日	同上⑪⑫	
2月1日	訪問のための直前準備⑬⑭ (学年全体での注意事項の確認とグループごとの最終打ち合わせ)	
* 2月4日～8日	中学入試期間のため自宅学習 → グループごとの訪問学習	
12日	訪問結果も含めたグループごとのまとめ⑮⑯	(実際はまとめの時間が足りず, 放課後の時間も利用した。)
19日	学年発表会(グループによるポスターセッション方式) ⑰⑱	
3月8日	個人レポートの提出しめ切り → 春休み中に編集	

### 3. 調べ学習

#### (1) 資料や訪問先のリストアップ作業

調べ学習を進めていく上で大切なことは、調べる生徒たち自身が何を調べたいのか、調べる必要があるのかをきちんと把握していることと、それを調べるための資料や情報をうまくさがしだすことである。特に後者は、生徒たちが調べ学習に積極的に、意欲的に取り組んでいけるかの鍵でもある。そこで、本格的な調べ学習を始める前段階として、グループごとによる資料や訪問先のリストアップ作業の時間を設定した。資料2は、その時間に配布したプリントである。

本校には「自主研究」という時間があり、一年生の前期はその入門期ということで、特にさまざまな探究の方法を学ぶ期間となっている。生徒たちは、この自主研究の時間を通して、「図書館の使い方(図書文献のさがし方)」や「インターネットでのホームページ検索の方法」、さらに「郊外施設を利用した探索方法」などを既に学んできている。

今回の総合学習でも、このような自主研究での学習経験を生かして、調べ学習のための資料さがしや訪問場所さがしが行われた。ただ、資料2の中の「資料リストアップ表」や「訪問先リストアップ表」の生徒による記述を見てもわかるとおり、この時間だけでは、自分たちのグループの課題にあった資料や情報を十分に集められなかったというのが実状である。

しかし、このことがかえって刺激となり、1月の本格的な調べ学習の時間には、多くの生徒たちが図書館から本を借りてきたり、自分で書籍等を購入して来たり、またインターネットのホームページをプリントアウトして持ってきたりなど、資料や情報をさがしだしてきていた。

## (2) 「グループ」での調べ学習

1月後半の総合カリキュラムの時間は、比較的まとまった期間(15, 18, 25日)に総合学習の時間をあてることができたので、そこに本格的な調べ学習の時間を三回設定した。また、本校の中学入試のための自宅学習期間(2月上旬)に訪問学習を予定していたので、その訪問先との交渉も平行して行うことができた。

## 〈資料2〉 資料や訪問先のリストアップ 作業の時間に配布したプリント

2001 年度 第1 学年 総合学習「世界の人々」

2001.12.11 (火)

### 調べる内容の検討

- ・どんな内容を調べる必要があるか。
- ・訪問先では、どんなことを聞きたいのか。
- ・電話やメール、手紙などで聞きたいことはないか。など

- ・どんな内容を調べる必要があるか。

- 1 今問題になっているテロ関係の戦争の起ったきっかけの理由。(日本に何の影響があるように感じたか)
- 2 これからの世界を担っていく私たちはこの乱世にどうやって世界をどうやって生きていけばいいか。
- 3 テロにより、無関係な人々が苦しんでいるのでアメリカ側の苦しんでいる人々について。

- ・訪問先では、どんなことを聞きたいか。

(ジャーナリストに聞く)

- I なぜテロが起ったかのそもそもの理由。
- II アメリカとアフガニスタンの仲が悪くなった理由。
- III これからの世界を担う私たちはどうすればいいか。(日本から何かできるか)

IV どのような規模か。

V 苦しんでいる人々に私たちは何かできるか。(アメリカ側)

- ・電話やメール、手紙で

もし、ジャーナリストの所に、行けなければ内容をきいて、聞いてもらう。

自分たちで考えて実行すること。

資金、知識としてテロの事を知り世界にどうけんしていくためのコース新聞で、つとめて情報を得る

班名 ( World ☆ Peace )

代表者名 ( )

班のテーマ ( 今問題になっているテロ関係の戦争 )

2001 年度 第1 学年 総合学習「世界の人々」

2001.12.11 (火)

### 資料リストアップ表 ( 班名、著者名、出版社名、ホームページ名などを記入 )

http://homepage1.nifty.com/o-mino/qrekore-tero10.htm
「テロはどうしてアメリカで起ったか?」
http://www.yomiuri.co.jp/crash/0912.3graph.htm
「アメリカ・テロについて」

班名 ( World ☆ Peace )

代表者名 ( )

班のテーマ ( 戦争について )

2001 年度 第1 学年 総合学習「世界の人々」

2001.12.11 (火)

### 訪問先リストアップ表

訪問先: 日本ジャーナリスト会議 住所: 東京都千代田区千代田 1-4-8 松竹ビル 401号 電話: 03-3552-6475 どんなところか 日本ジャーナリスト会議 東京本部
訪問先: 広告市民の会 住所: 中央区千代田 1-13-14 電話: 03-3552-9131 どんなところか 地下鉄丸の内線 八丁堀駅 A3 出口 右手 徒歩 2 分
参加費: 学生 500円
訪問先: 住所: 電話: どんなところか
訪問先: 住所: 電話: どんなところか

班名 ( World ☆ Peace )

代表者名 ( )

班のテーマ ( 戦争について )

資料3は、この三回の調べ学習におけるあるグループの記録用紙である。ユニセフとは何か、難民とはどのような人たちかを調べる過程と、訪問先としてのユニセフハウスとの交渉過程がうまくかみ合って調べ学習が進んだことがうかがえる。調べ学習の時間を比較的まとまった期間に設定した成果といえるだろう。

### 〈資料3〉 調べ学習における記録用紙（あるグループの例）

2001年度 第1学年 総合学習「世界の人々」 2002.1.15（火）

① グループ名( 難民助け隊 ) ☆

グループ代表者名 ( )

＜今日調べた内容（簡条書きでよい）＞

★ユニセフとは何か  
★ユニセフの役目 ☆水と衛生 ☆教育  
☆子供の保護  
☆保健  
☆栄養

★難民とは…?  
★難民が生まれた理由  
★ユニセフの使命

平日 9:00～6:00  
第24 10:00～6:00  
その外…休み

訪問学習について（できたところまででよい）  
・訪問先 ユニセフハウス  
住所：東京都港区高輪4-6-12 (2回訪問予定)  
電話番号：03-5789-2034  
・訪問先で話を聞く内容  
ユニセフについていろいろ質問する。

2001年度 第1学年 総合学習「世界の人々」 2002.1.18（金）

② 総合学習は、個人個人ではなく、みんなで取り組む学習です！

先日の火曜日は、グループ内でうまく分用して調べ学習ができたでしょうか。また、自分たちのグループのテーマに合わせて、訪問先を考えることができたでしょうか。どういったことを知りたいのか、その質問に基づいた訪問場所（人物）はどこ（だれ）だろうか、グループのみんなで知恵を寄せあわせて、決めていきましょう。

グループ名( 難民助け隊 ) ☆

グループ代表者名 ( )

＜今日調べた内容（簡条書きでよい）＞… 前回より進んだかな？

ユニセフハウスに連絡してFAXまち。  
FAX番号 03-5789-2034 (左側発信でよいとします)  
来週初めに送り返す。  
・質問内容を考えた。

訪問学習について…リーダーの人は、相手に連絡を取る前に、必ず1Rにいる佐々木のところまで来て下さい。

・訪問先 (大塚) ユニセフハウス  
住所：東京都港区高輪4-6-12  
電話番号：03-5789-2011 (学校事業部について聞いて)  
・訪問先で話を聞く内容  
・ユニセフについて  
・難民について  
・アフガンについて

2001年度 第1学年 総合学習「世界の人々」 2002.1.25（金）

③ グループ名( 難民助け隊 ) ☆

グループ代表者名 ( )

＜今日調べた内容（簡条書きでよい）＞… 前回より進んだかな？

・訪問先に聞く事を出した。  
↓  
グループ別にまとめた。  
・難民について  
- 国連難民高等弁務官事務所について

#### 4. 訪問学習

##### (1) 訪問学習のねらい

今年度の総合学習を構想する段階から、訪問学習はぜひ取り入れたいと考えていた。そのねらいは、次の二点である。

- ① 自分たちが生きている社会や世界に関心を持ったり、社会に対して自分たちにできることは何かを考えたりする上でも、その社会で実際に生活している多くの人たちと直接触れ合う機会を持たせる。社会への視野を広げるさせるだけでなく、社会(に生きる人々)と実際に関わりを持たせる。
- ② 自分たちの課題を探究する方法の一つとして、専門の立場で取り組んでいる人や仕事にたずさわっている人を適切に見つけだし、直接話を聞いたり質問したりすることで自分たちの課題に対する考えを深めさせる。

①のねらいだけなら、訪問学習だけを独立させて実施することや訪問場所を教師側で用意することも可能であろう。しかし、②のねらいも非常に重要であると考え、一年生の段階ではあるが、あえて生徒たち自身に自分たちのグループの訪問場所をさがさせるという活動も組み入れることにした。調べ学習の項目で記述したように、1月の本格的な調べ学習の時間に「訪問先との交渉」も平行して行った理由も、この②のねらいを重視してのことである。

表2に示したのは、各グループが自分たちの課題に合わせて訪問場所の検討を行い交渉した結果、最終的に確定し、実際に訪問した場所の一覧である。

もちろん、訪問場所が確定するまでには紆余曲折があり、スムーズに進んだわけではない。生徒たち自身が調べたいこと、話を聞きたいことなどから見つけだしてきた訪問場所であっても、例えば大使館やゲームソフト会社などは断られることが多かった。また、自分たちの課題に合った訪問場所そのものをなかなか見つけられないグループもあった。そのようなときは、教師側がまずそのグループの生徒たちの話を聞いた上で、アドバイスという形で対処した。例えば、世界の食事を調べているグループは、最初本大学の先生を訪問しようと考えていたが、自分たちが聞きたいと思っていることに答えてくださる専門の先生はいらっしゃらないことがわかった。そこで、教師側からは「料理関係の専門学校はどうだろうか。」という言葉を投げかけた。するとそのグループは、インターネットで都内の専門学校を調べた後、電話でのやりとりを経て、自分たちの質問したいことがらに答えてくれる専門学校を見つけたことができた。また、報道機関(テレビ局)を訪問したいと考えていたが、電話での交渉で断られてしまっていたグループに対しては、別のグループが見つめてきた中学生向け新聞の編集部を紹介した。

生徒たち自身に訪問場所をさがさせるという活動を取り入れてみて、②のねらいはもちろん、「社会(に生きる人々)と実際に関わりを持たせる」という①のねらいにも大きな成果があることがわかった。

〈表2〉 各グループごとの訪問場所一覧

	グループ名	テーマ
1	ゆかいな仲間達（言語班）	お茶大の宮川幸久教授（英語学） 内線 5228
2	難民助けターイズ☆	日本ユニセフ協会学校事業部 港区高輪4-6-12 Tel 5789-2014
3	冷静と十夢のあいだ	鏡リュウジさん（占い師）の事務所
4	世界の佐藤家	武蔵野調理師専門学校 豊島区西池袋3-12-5 Tel 3982-6151
5	Happy of the world	朝日中学生ウィークリー編集部 中央区築地5-3-3 Tel 3545-5227
6	Little Rainbow	目白幼稚園の教会
7	T-REX	毎日中学生新聞 Tel 3212-3275
8	T. T. K	大塚警察署 文京区音羽2-12-26 Tel 3941-0110
9	Mr.Sのレインボー	辻学園東京本部 家庭料理教室 中央区日本橋2-7-25 Tel 3271-2445
10	星々★ すたーず	お茶大の留学生センターの留学生
11	World ☆ Peace	外務省大臣官房国内広報課 千代田区霞が関2-2-1 Tel 3580-3311
12	Donasion's	日本ユニセフ協会学校事業部 港区高輪4-6-12 Tel 5789-2014
13	ゲラコロ星人	ルーテル蒲田教会 大田区仲六郷1-40-18 Tel 3731-6777
14	プルトニウム	防衛庁 広報課 Tel 3268-3111
15	サンライズ東京	エンターブレイン社（『ファミコン通信』出版） Tel 5433-7140
16	WORLD	東京ドイツ文化センター内図書館 港区赤坂7-5-56 Tel 3584-3203
17	真・ムツゴロウ王国改	靖国神社 遊就館 千代田区九段北3-1-1 Tel 3261-8326
18	THE ☆ BUMP OF WORLD	ピースボート 新宿区高田馬場3-14-3 Tel 3363-7561
19	プロジェクト6～Six	杉野学園衣装博物館 品川区大崎4-6-19 Tel 3491-8158
20	トリプルA『A. A. A』	東京大学の佐藤教授（イスラム関係）
21	G <sup>3</sup>	お茶大の留学生センターの留学生

\*各グループの課題（テーマ）については表1を参照



## (2) 訪問学習の直前準備

総合学習における生徒側の中心になっているのは、評議員たちである。訪問学習の直前（2月1日）に学年全体で注意事項等を確認する時間を設定したが、その内容や進行を評議員たちに任せることにした。

注意事項としての「服装」「持ち物」「マナー」に関すること、またグループごとの最終打ち合わせでの確認事項としての「待ち合わせ日時、場所」「遅れたときなどの緊急連絡先」「質問したいこと、知りたいこと」など、評議員たちの話し合いの中で出てきたことがほとんどである（資料4を参照）。生徒たち自身が、学校の外（つまり社会）に出での学習をどれくらい意識しているかを知る手がかりにもなった。

## 〈資料4〉 評議員が作成したプリント

## 注意事項

服装：絶対制服を着用すること。



持ち物：
 

- 生徒手帳（身分証明書）
- メモ／筆記用具 四角
- 交通費 ③④
- 学校からのカード（校外学習証明書）

ふた（交通や行き先での）：

- さわいだい、人に迷惑をかけない
- より道をしない
- あいさつをする

単独で行動しない。

訪問が無事に終わったら、解散する前にグループ長は必ず学校に電話する。

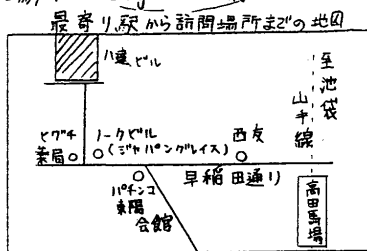
お茶中の電話番号：5978-5862

## 訪問学習について。確認事項。

グループ名：THE ☆ BUMP OF WORLD

メンバー：

- 行き先 ビーズホート
- 連絡先 (03) 3363-7561
- 待ち合わせ日時 2月7日 午前(午後) 12:45
- 場所 Big Box 前



○ 遅れた時などの緊急連絡先

遅れる時は、今自分達がどこに居る、どの位の時間に着くか、どうして遅れるのかをきちんと言う。もちろん自分達の名前(学校名と学年)とおおびの言葉も忘れずに！

☆ その他

- 注意事項(別プリント参照)の確認
- 質問事項の確認

○ 質問したい事。知りたい事。

- アフガニスタンに行った感想
- 難民達の様子
- アメリカに対する考え
- 生活環境(テロ前とあとの違い)
- (食生活と教育について)
- 一番被害を受けた人々とその国(市)
- 私達中学生にできること
- (復旧にかかる時間と予想額)
- アフガニスタンに、今必要なもの
- アフガニスタンはどんな国だったか

- 質問の答えは、総カリノートがメモ帳に書いておく。

## (3) 訪問学習のまとめ

訪問学習を無事に終えた後は、「訪問学習のまとめ」を行った。資料5は、その際使用したプリントである。「(1)個人用」と「(2)グループ用」に分けてあるのは、その後にひかえている

総合学習全体のまとめとしての「個人レポート作成」と「グループごとのポスターセッションによる学年発表会」を意識したからである。このプリントへの記入は、自分たちの訪問学習を繰り返す機会になったと同時に、まとめとして何が使えるかを再検討する場にもなった。特に、ポスターセッションで使う模造紙のレイアウトは、模造紙にまとめる上で効果的であった。

## 〈資料5〉 訪問学習のまとめのプリント

2001年度第1学年 総合学習「世界の文化」

2002.2.12 (火)

### 訪問学習のまとめ(1) 個人用

訪問先：(辻料理教室) さん  
特にお話を聞いた人の名前：(鈴木) さん

訪問したときのメモをふり返りながら、有意義な体験をしっかりと整理しておきましょう。あとから個人ごとにレポートをまとめ、一冊の本(冊子)にします。

1. お話を聞いて  
訪問先でのお話のなかで、印象に残っているのはどんなことですか。

いろいろな乾燥した食物を並べて見せていただきそれらどのような料理に使うのかを教わりました。

2. 自分たちのグループの質問とその答えについて  
自分たちの質問に対する答えやお話のなかで、印象に残っているのはどんなことですか。

日本料理の会席料理と、懐石料理のちがいがそれぞれの持長について教えてもらいました。

3. 訪問学習を終えて  
訪問学習で専門の方のお話を聞いて、またいろいろなことを質問してみて、どんなことを考えましたか。

いつも食べなれている日本料理はとても奥が深い事が分かりました。お寿司のはじめは魚の保存法の1つだということも分かりました。

1年(R)組(35)番 名前( )

### 訪問学習のまとめ(2) グループ用

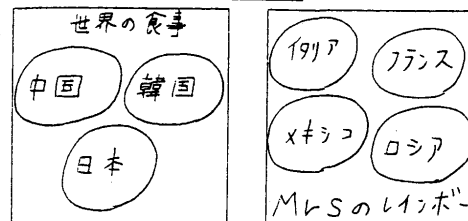
訪問学習の成果をほかのグループの人たちとも共有するために、ポスターセッションによる発表会を開きます。(来週19日)

直接お話を聞いていないほかのグループの仲間にもわかりやすい発表をするためには、どんな内容をどんなふうにまとめて話すとよいでしょうか。工夫してみましょう。

1. ポスターセッションで、ほかのグループの仲間にも伝えたいこと(発表内容)  
だいたい発表内容を書き出してみましょう。(想いつくまに書き出して、最後にどんなふうに模造紙(2枚)にまとめて話すとよいのか、レイアウトを考えよう。)

伝えたい話題	だいたい内容(要旨)
中国 フランス 韓国 ロシア 日本 イタリヤ メキシコ の国々の料理について	1人1人自分の担当した国の料理について書く。分かった事を書いたりその料理の食材について書いたりする。

2. ポスターセッションで使う模造紙のレイアウト



## 5. まとめ 「グループによるポスターセッション」と「個人レポート」

総合学習の最後のまとめとして教師側が構想段階で考えていたことは、学年発表会で各グループが発表し、学年全体でそれらを共有する」ということであった。では、発表の仕方はどうするか。一つひとつのグループが順番に発表するというオーソドックスな方法も考えられたが、グループ数の多さなどを考えると発表時間の短縮は避けられない。

この発表の仕方も含め、総合学習のまとめをどうしたらよいか、生徒側の中心である評議員たちの話し合いにおろすことにした。その時評議員たちに提示したのは、「2月19日に学年発表会を開く。時間は2時間。数にして21のグループが今まで調べてきたことを発表する。どのように学年発表会を行ったらいいか考えよう。」ということだけであった。

それに対して、評議員たちが考え出した方法が「グループによるポスターセッション」と「個人レポート」である。特に、ポスターセッションという方法は、本校では2年生の自主研究の発表で採用しているものであり、生徒たちの発想の豊かさに感心させられた(詳細は資料6を

参照)。

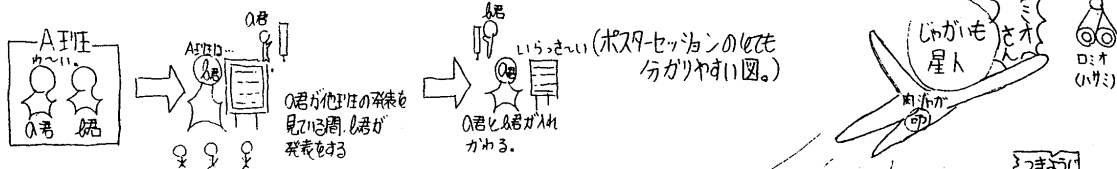
## 〈資料 6〉 評議員が作成した「総合学習の発表の方法とまとめ方」・「1 年総合学習会」のプリント

## 〔総合学習の発表の方法とまとめ方について〕

1 年生の今回の総合学習の発表方法は「ポスターセッション」と「レポート」に決まりました。ポスターセッションとレポートについての説明を簡単にするので参考にしてください。

## ①ポスターセッションについて

ポスターセッションとは何かという点、各班が模造紙に調べた事をまとめてお店のように発表していくことです。お店とは班の人数を2つの班に分けて(前半に他のグループを見てまわる班、後半に他のグループを見てまわる班)片方の班が他のグループの発表を見てまわっている間、もう片方の班が自分達の調べた事を発表するという形のもの。



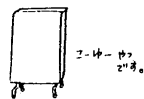
## ②レポート

各班ではポスターセッションとは別にレポートを作ってもらいます。このレポートは各班から提出された物を本にします。レポートにはポスターセッションの模造紙と同じく研究の成果をまとめてください。

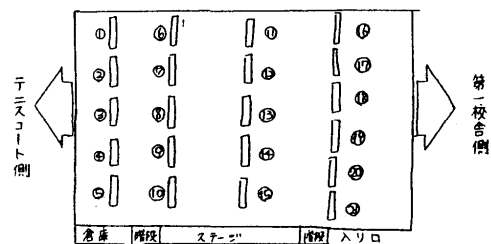
訪問学習や総カリの時間に調べた事を活かしていい発表をしてください。フッフッフッフ...  
BY 佐々木先生 & 上沼先生 & 評議員一同

## ○ 1 年総合学習発表会について ○

2 月 19 日の 5, 6 時間目に総合学習の発表会を行います。今回のやり方は、ポスターセッションです。各グループ 2 枚の模造紙にまとめもらったものを、車輪のついた板の両面に貼ってもらいます。裏を見せるときは、180°回転させて下さい(回転させる時後ろの人がいいなにかきちんと確認して下さい)



## ○ 各グループの発表場所 ○



★番号が書いてある方に立て発表して下さい。(例: ①のグループは左側)

## ○ 当日の予定 ○

- 1:20 アリーナに整列終了・説明開始
- 1:45 説明終了・自分達の場所へ移動 (うさあわせ)
- 1:50 前半開始
- 2:15 前半終了・休み時間(うさあわせ含む)
- 2:20 後半スタート
- 2:45 後半終了・片付けの説明など
- 2:50 片付け開始
- 3:00 6時間目終了

## 注意

- ・時間に余裕がないので、そこは動きを動いて下さい。
- ・当日、板を運んで来た人は板の片付け、それ以外の人は、アリーナのゴミ拾いなどをして下さい

- ① T.T.K.
- ② G<sup>3</sup>
- ③ WORLD
- ④ MR.のレインボー
- ⑤ プロジェクトG ~Six~
- ⑥ ワラジロ星人
- ⑦ Happy of the world
- ⑧ A.A.A.
- ⑨ 冷静と夢のあいだ
- ⑩ アルティウム
- ⑪ THE☆BUNP OF WORLD
- ⑫ 世界の佐藤家
- ⑬ T-REX
- ⑭ 星々すた→ず
- ⑮ WORLD PEACE
- ⑯ サンライズ東京
- ⑰ 難民助けタイズ☆
- ⑱ Donasion's
- ⑲ Little Rainbow
- ⑳ 言語班
- ㉑ 真・ムツゴロウ帝国改

(板を運ぶ人(各班2人くらい)は、当日、1:05 に 1R 前に集合して下さい) ㉒

## 6. 成果と課題

課題決定から調べ学習、訪問学習、そして学年発表会や個人レポートの作成という各ステップを踏みながら学習を進めてきたことは、中学生として初めて総合学習に取り組んだ生徒たちにとっても、総合学習とはどのような学習であるかを体得する上で有効であったといえるだろう。また、はじめから教師側がすべてを設定してしまうのではなく、各段階でいろいろな具体的な内容を、評議員たちを中心に生徒自身に考えさせたことは、「自分たち(生徒)自身が決めたテーマで学習できる」というだけでなく、「自分たち(生徒)で決めながら学習できる」というより広い意味で総合学習を捉えさせることにもつながったのではないかと考えている。自分たちで決めながら学習できるという喜びは、学年発表会での生徒たちの笑顔によく表れている。

最後に、今年度の総合学習において今後の課題として残ったことを一つあげておきたい。それは、個人ごとではなく「グループによる協同学習」をいかに成り立たせるかの指導が不十分だったことである。本稿の冒頭にも掲げたように、この総合学習のねらいの一つは「仲間と協同して学習することの楽しさや大切さを知る」ことである。しかし、調べ学習における実際の生徒たちの活動の様子をみていると、グループ内で分担して作業は進めているが、それぞれのメンバー同士で話し合ったり、考えを出し合ったりする場面はあまり多くなかった。ポスターセッション用の模造紙にまとめるときも、それぞれが分担したところを書き、グループ全体でまとめ方を工夫しようという意識はあまり高まらなかった。

もちろん、メンバー同士が仲が悪かったという意味ではない。グループ内での分担はどのグループもできていたし、訪問学習の際も全員そろった行動ができた。また、他のメンバーの模造紙へのまとめ方について「上手だね。」という声もしばしば聞こえてきたし、ポスターセッション方式でのグループ発表も楽しくできた。しかし、それらは表面的なものにすぎず、グループ活動を通しての「望ましい人間関係」の形成にはまだまだ到達していないといえる。また、生徒たち自身にも、個人ではなく「グループで協同して学習する」ことの意義は十分に把握されていないだろう。

今後は、総合学習を通じて「グループによる協同学習」を理論的、実践的に積み重ねることで、生徒たちに「仲間と力を合わせてひとつのことをなし遂げたり、情報を集め協力し合って活動する社会的技能」<sup>注2)</sup>を身につけさせていきたい。(文責 佐々木善子)

注2) Y. シャラン S. シャラン著 石田裕久 杉江修治 伊藤篤 伊藤康児訳

『「協同」による総合学習の設計 グループ・プロジェクト入門』p.1 北大路書房 2001年 より引用

〈学年発表会でのポスターセッションのようす〉

